おおはしごん

高齢者から学ぶ

島根県作業療法士会
副会長　楠田　敦子

14年前、縁あって介護保険制度開始と同時に老年期分野で仕事をすることになった。12年間のブランクと6年足らずの身障分野での経験。入職当初は戸惑いと焦燥感等々、様々なプレッシャーに押しつぶされる毎日であった。一人職場で悩み等相談できる人もなく、心細い日々。これでいいのかと思いながらも、入所、通所、訪問。さらに町内５地区のミニデイでの関わり等、時間に追われる毎日が続く。いつやめようか？と考えながらも13年間勤める事が出来、多くの学びがあった。

高齢者は様々な障害を抱えながら一人、あるいは高齢者夫婦のみで生活し、自分の意志とは関係無しに施設に入所し、自宅に帰りたい思いを持ちながらも、我慢せざるを得ない状況の人々がいる。老いていく自分、地位、友人、配偶者、財産等々色々なものを失い孤独感を感じている。それでも「人に迷惑をかけたくない。かけてはいけない。」と自分の気持ちを飲み込む方々。当たり前のように一日が終わり、また、明日が当然のように来るのではない。「今日一日が何事もなく無事に終わりました。ありがとうございました」と手をあわせ、次の日の朝を「今日もいい一日でありますように…。」と手を合わせ迎えるお年寄り。明日の日は誰にも保証されていない。一日一日を大切に過ごさなくては！と再認識する。

「畳の上で最後を迎えたい」との思い…。かなえることは難しくても家族に看取られたらありがたい。「早く迎えがくることばかりを望んでいる」と話し、うつむくAさん。どう声をかけたらいいのか…。ただ手を握り無言でそばに寄り添うことしかできなかった。

“さみしい”“家に帰りたい”内なる声が聞こえてくる。作業療法士としてだけでなく、一人の人間として何ができるのか、何をしてあげればいいのか？　自分に問いかけた。

『泣いて一日、怒って一日、どうせ過ごすなら笑って一日』そして、私のできることはうつうつと過ごす日々を少しでも、一分一秒でも笑うことのできる環境にすること。閉鎖的だったり、暗かったり、辛い環境の中でも、少しでも明るく、（自分自身にどんなにつらく悲しいことがあっても体調が悪くとも）笑顔を絶やさずにいること。それが自分の役割、プロとして出来ること。

戦争の時代を生抜き、苦労を苦労とも思わず、一所懸命に生きてきた方々。人に迷惑をかけないことをモットーとし、感謝の気持ちをわすれない。「だんだん」「めんたし、めんたし」自然に感謝の気持ちを口に出すことが出来る。見習わなければならないこと、学びが本当にたくさんある。様々な出会いに感謝！感謝！

昨年6月、デイサービスを立ち上げ、ようやく1年が経過する。リハ特化型と称しているが、機能訓練だけにとらわれたくない。精神・心理面、集団活用、行動変容へのアプローチを主としている。地域の高齢者、障害を持つ人々にとって、この場所が元気を取り戻せる場所、笑顔が自然と出て活き活きと過ごせる場所、心安らぐ場所になること。また、出かけていく所、会いたい人がいる場所作りをしている。

これからも様々な出会いから、学び、喜び、感動を得ることができれば幸いである。

一般社団法人 日本作業療法士協会

平成26年度 定時社員総会

平成26年5月31日14:30～
笹川記念会館 国際会議場

森脇　伸哉、小林　央

【平成26年度重点活動項目】　キーワード:地域、アジア
生活行為向上マネジメントの普及　医療・介護を通じて作業療法が何をすべきか
認知症初期集中支援チーム対応プロジェクトの推進
地域包括支援センターにおける作業療法士の役割
地域包括ケアシステムに作業療法士がどう資するか

上記項目にそって予算や事業計画が示され各県からの意見や質問・答弁があり、予定された議案はすべて承認されました。

育児等による休会制度の改正や公益法人化に向けた課題なども協議されましたので詳細は機関紙等で各自確認くださいますようお願いいたします。

平成26年度　一般社団法人 島根県作業療法士会　総会報告

日　時:平成26年6月1日（日）10：00～12：15
場　所:島根県立男女共同参画センターあすてらす
議　長:片 山 優 子氏（松江総合医療専門学校）
副議長:瀬 上 賀 代氏（松江生協リハビリテーション病院）
書　記:田 中 哲 成氏（こなんホスピタル）
出席者:42名　委任状：258通　計300名／ 397名

事務局長　小林　央

総会員数397名の過半数を越え総会成立し議案に沿った協議が行われた。

会費未納問題は例年の課題であるが、施設単位で取りまとめてはどうか等参加者からの主体的な改善策を提案された。財務部を通じて改めて対策を講じたい。

一部事業が完遂できない部分もありお詫びをお伝えしたが、次年度予算の承認をいただきました。地域包括ケア、認知症初期集中支援、生活行為向上マネジメント等協会と課題を一つに取り組むべき課題を多く抱えている。会員相互のつながりと資質向上を継続課題として取り組みたい。

総会報告

一般社団法人 島根県士会教育局
生涯教育部長　川上　拓也

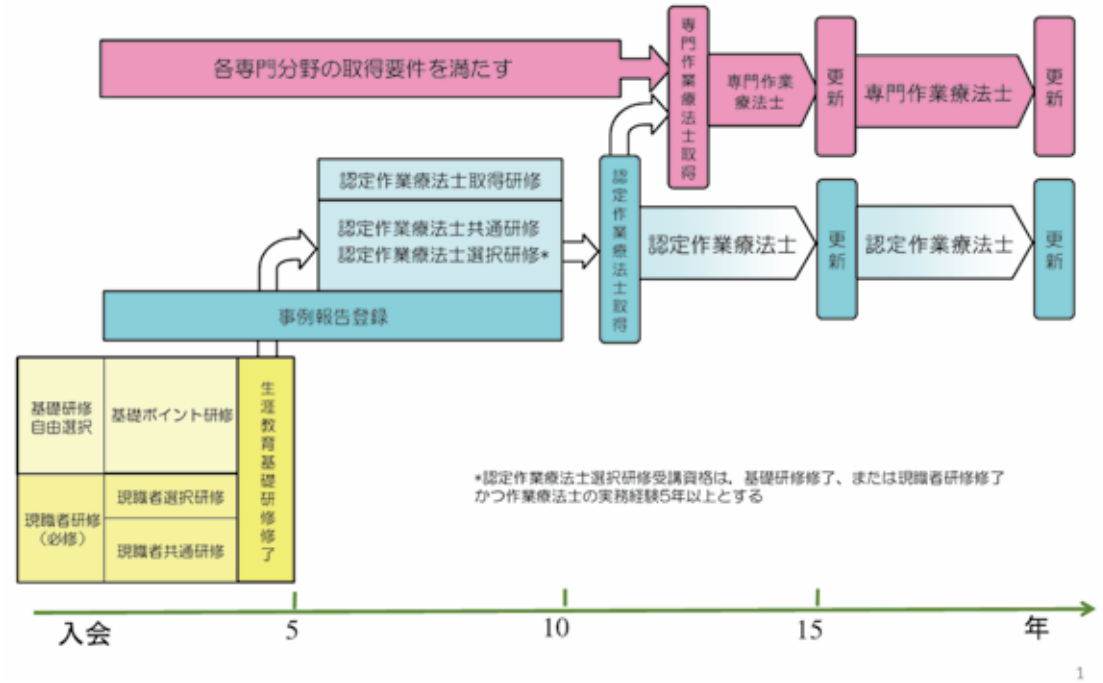
一般社団法人　島根県作業療法士会の皆様、日頃より県士会活動に御協力いただき誠にありがとうございます。先日県士会総会が開催され、新たな気持ちで平成26年度がスタートいたしました。今回は日本作業療法士協会の生涯教育制度の中より、初めの一歩と言える、理解して頂きたい概略図を掲載致します。県士会ホームページの中にはさらに詳しい内容を掲載しておりますのでご確認ください。

■生涯教育制度

専門職としての責任を果たすため、作業療法士は国家資格を取得した後も学術技能の研鑽に努める必要があります。これは作業療法全体としての質の維持・向上に欠かせないものです。そこで、日本作業療法士協会は有資格者の急増、職域の拡大、社会的ニーズ多様化への対応、作業療法の質の保証のため、組織的に生涯教育体制の整備を進めています。これは、自己研鑽のための「生涯教育基礎研修」と、作業療法の臨床実践、教育、および管理運営に関する能力を習得するための「認定作業療法士取得研修」、高度かつ専門的な作業療法実践能力を習得するための「専門作業療法士取得研修」に分かれています。

作業療法士一人一人が、社会に必要とされる、組織に必要とされる、そして何よりも患者さんから必要とされるセラピストになるよう努力を続けてもらいたいと思います。

生涯教育の概略図



生涯教育制度の構造図（2013）

他職種と価値観を共有する重要性

平成２５年度
「地域リハビリテーション関係者研修会」に参加して

介護老人保健施設サンホームみずほ
作業療法士　山崎　晃

先日、大田市の男女共同参画センターあすてらすにおいて開催された、平成25年度地域リハビリテーション関係者研修会に参加してきました。『大田圏域における地域と医療の連携』というテーマで、大田市立病院小林央OTの講演。事例発表として、たてがみの郷 松村至　介護支援専門員からの報告がありました。その後、多職種同士のグループワークという内容でした。グループワークでは、連携時のFIMの使用について「点数で利用者の方に成績をつけているような印象を受ける」「書いたほうが早いから使わない」など、現場の声を聞く事ができ、様々な課題を痛感しました。チームの中で、役に立つ作業療法士になるために、今何が必要か改めて考える良い機会になりました。

＊この研修は、日本作業療法士協会のSIGに登録されており、毎年開催されています。
次年度もぜひ参加してください。

新人職員紹介

雲南市立病院
江角 奈緒子

今年の４月から作業療法士として働いています。

私は長期臨床実習の際に、バイザーの先生、患者様、他スタッフとのコミュニケーションがとれていないという指摘を何度もしていただいており、学生時代にはとても悩みました。ある先生からは、考えすぎずにそのままの自分で人と接してみなさい、と助言をいただき、その言葉を胸に緊張の初出勤をしたのが２か月前のことです。

現在は、仕事で困っていることなど、リハビリ科の先輩方や他職種の方々に相談したりし、苦悩しつつも、とても楽しい毎日を送っています。正直なところ、リハビリを始めとした病院職員の皆さん、患者様、家族様と、とても優しく話しやすい方ばかりで、驚いています。地域性、というのもあるのかもしれませんが、素の私を受け入れていただけて、コミュニケーションを多くとることで、私自身の考えの視野も広くなってきたように感じています。

まだまだ、仕事に関しては未熟な点ばかりで、周りの方々に多々迷惑をかけているとは思いますが、だからこそ、報告や連絡、相談は欠かせないことだと思います。それに、こまめにコミュニケーションをとることは、プライベートな時間を充実させることにもつながりました。リハ科で飲み会に行ったり、お誘いで絵手紙教室に通ってみたり、看護師さんたちと食事に行ったり、患者様達の応援で趣味の演劇活動を再開したりと、仕事以外の時間も楽しくなりました。

そのようなところで、患者様の人生をより良いものにできるように、自分自身の人生もより良いものにできるように、毎日４，５食の食事をとりながら、日々奮闘しています！

生活行為向上マネジメント推進活動

～生活行為（＝作業）の探究と他者への伝達に向けて～

島根リハビリテーション学院
宇都宮 賢一

皆さん、こんにちは。生活行為向上マネジメント（以下MTDLP）推進委員の宇都宮です。5月24日・25日にMTDLP全国推進会議に出席しましたので、その内容をふまえ、今年度のMTDLP推進活動についてお知らせします。

MTDLPは一般社団法人　日本作業療法士協会が2008年より取り組んできた活動です。2025年（平成37年）の日本は高齢者の数が増えると同時に、認知症高齢者や独居者の数も増えていくことは皆さんもご存じと思います。

厚生労働省は2025年を見据え、国民が健康で生活していくためには、予防期から終末期までの生活行為を見直し、社会と接点をもった生活が必要であると考えています。そのために作業療法士には、機能訓練を主体とした作業療法よりも社会復帰を目指した生活行為への関わりを望んでいます。また、地方自治体には、ハード面のサービスのみでなく、ソフト面も活用した対象者の社会参加を促すシステムの構築を期待しています。

厚生労働省老健局老人保健課担当者の話からは今後、国や地方自治体の施策が変わりそうです。「生活行為」という名称は、公的文書上に多く記載されるでしょう。また、平成29年度末までに介護予防事業のあり方は変化します。それに伴い、地方自治体は生活行為に対しての評価を、作業療法士に求めてくるかもしれません。生活行為＝作業の分析は、作業療法士が得意とするところですよね。皆さんが勤務する地域の行政は、皆さんの作業分析力やマネジメント力をご存じでしょうか。

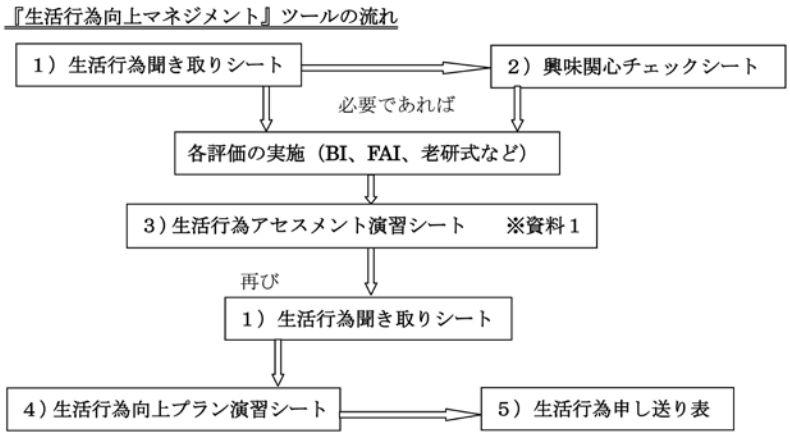
今年度のMTDLP推進活動は、定期の研修会に加え、生活行為＝作業を見直す意味でも「島根で作業を学ぶ会（SOMG）」（代表：北垣佑一氏）と作業科学（講師：港　美雪氏）とのコラボレーション研修会に加え、MTDLPを用いて学会発表等を考えている方の支援ができればと思っています。私の目的はただ一つ、「作業療法を探究すること」です。そのために、「生活行為＝作業のもつ力」を見つめ直し、他者に作業療法を伝えるツールとしてMTDLPが活用できないかと考えております。今年度もよろしくお願い致します。

『生活行為向上マネジメント』とは …

パート 4

今年度も引き続き連載が続きます。少しでも会員の皆さんの興味に繋がればと思いながら、頑張りたいと思います。

この機関紙が発行される頃には、終了していますが…June rectureと称して研修会の１講座に加えて頂いたり、講師選定に苦慮している当士会にとってはありがたい中国ブロックでの研修会も開催されました。ワークショップは、全く初めての方から、ある程度シートを活用されている方まで、３つのコースに分かれて行われました。学術部では、今後も研修会を開催していきますので、こんな研修会にして欲しいなどご意見をお待ちしております。



今回はアセスメントシートです。現在はマネジメントシートとして、聞き取りシートとアセスメントシート、そしてプラン演習シートが一緒になっております。これは主に事例登録や学会発表用に使用されるようです。

アセスメントを行うには、前述の各評価の実施が欠かせません。（ADL・IADL・QOLなど）そのうえでICFを活用し、行為を妨げている要因や現状の能力（強み）を把握していきます。さらに予後予測のところは、どのようにすれば行為が上手くできるようになるのか見立て（可能性）について記入していきます。そして具体的に対象者と目標を合意し、作成していくことが必要です。

一般社団法人 島根県作業療法士会
学術部保管　協会発行マニュアル一覧

作業療法マニュアルシリーズ

１：脳卒中のセルフケア
５：手の外科と作業療法
６：障害者・高齢者の住まいの工夫
８：発達障害児の姿勢指導
１０：ＯＴが知っておきたいリスク管理（２冊組）
１１：精神障害者の生活を支える
１２：障害児のための生活・学習具
１３：アルコール依存症の作業療法
１４：シーティングシステムー座る姿勢を考えるー
１５：精神科リハビリテーション関連評価法ガイド
１６：片手でできる楽しみ
１７：発達障害児の遊びと遊具
２０：頭部外傷の作業療法
２１：作業活動アラカルト
２２：障害者の働く権利・働く楽しみ
２３：福祉用具プランの実際
２４：発達障害児の家族支援
２５：身体障害の評価（２冊組）
２６：ＯＴが選ぶ生活関連機器
２７：発達障害児の評価
２８：発達障害児のソーシャルスキル
２９：在宅訪問の作業療法
３０：高次神経障害の作業療法評価
３１：精神障害：身体に働きかける作業療法
３２：ニューロングステイをつくらない
　作業療法のコツ
３３：ハンドセラピー
３４：作業療法研究法マニュアル
３５：ヘルスプロモーション
３６：脳血管障害に対する治療の実践
３７：生活を支える作業療法のマネジメント
　精神障害分野
３８：大腿骨頚部/転子部骨折の作業療法
３９：認知症高齢者の作業療法の実際
４０：特別支援教育の作業療法士
４１：精神障害の急性期作業療法と
　退院促進プログラム
４２：訪問型作業療法
４３：脳卒中急性期の作業療法
４４：心大血管疾患の作業療法
４５：呼吸器疾患の作業療法①
４６：呼吸器疾患の作業療法②
４７：がんの作業療法①
４８：がんの作業療法②
４９：通所型作業療法
５０：入所型作業療法
５１：精神科訪問型作業療法
５２：アルコール依存症者のための作業療法
５３：認知機能障害に対する自動車運転支援
５４：うつ病患者に対する作業療法
５５：摂食・嚥下障害と作業療法
　吸引の基本知識を含めて
５６：子どもに対する作業療法
　乳児期から就学まで
５７：生活行為向上マネジメントTM

2014.05.09

島根で作業を学ぶ会

浜田医療センター
作業療法士　北垣　佑一

はじめまして。島根で作業を学ぶ会(SOMG)の発起人の浜田医療センター作業療法士北垣佑一と申します。

作業を基盤とした実践（Occupation Based Practice；OBP）という概念が生まれ、日本でも生活行為向上マネジメントなど、作業療法業界に“作業”の流れがあると感じています。しかし、現場でOBPを実践するには様々な障壁があり、私自身、作業のもつ力を実感しているにもかかわらず、作業に焦点を当てた実践の難しさを日々感じています。「臨床現場でもっと作業をうまく処方することが出きれば、より患者様の生活に貢献できるのではないか、、、」これが勉強会発足の理由です。

SOMGでは、"作業を通して人々の健康に貢献できるようになる"ことを主目標としています。そのためには、“作業を学び”“作業療法をもっと発信できるようになる”ことが必要だと考えており、勉強会では、ディスカッションを大切にしています。主な内容は事例検討を中心に、作業療法独自の理論、評価スケールなども学びながら、参加者全員でのディスカッションを行っています。

第1回は「MOHO・OBP入門」、第2回は「OBPディスカッション＋事例検討」、第3回は「学生を交えた事例検討」、第4回は「COPMを練習しよう」・・・

これらの勉強会の中で感じたのが、領域を越えて先生方と学び会うことが非常に有意義だということ。特に事例を交えたディスカッションは、普段見落としていたり、自分だけでは考え付かないような様々な意見が飛び交う場となり、非常にエキサイティングです。
テーマが作業なのでまったく領域を問いません。皆様からのご意見、ご質問もどしどし受け付けております。Facebookページもありますのでぜひ検索してみて下さい。

今後も様々な企画をしています。まだまだ小さな勉強会ですが、もっと仲間を増やしていければと思います。みなさん一緒に島根で作業を学び、OTを盛り上げていきましょう。

連絡先：shimaneomg@gmail.com
事務局：浜田医療センター
作業療法士　北垣　佑一

図3. 第3回勉強会風景

腰痛予防に対する福祉用具の活用（全3回）

～第1回　腰痛予防の基礎知識と取り組み方～

事業部　福祉用具グループ
えだクリニック　松本

今年度は広報誌「おおはいごん」に事業部福祉用具グループより腰痛予防に関する福祉用具の活用をテーマとし、全3回に渡って掲載していきたいと思います。第1回目は「腰痛予防の基礎知識と取り組み方」と題して、腰痛予防の背景と一部福祉用具を紹介し、どのように取り組んでいくかについてご紹介します。

【腰痛予防を進める背景】

腰痛予防に対し厚生労働省は平成25年6月に平成6年以来19年ぶりに腰痛対策指針が示されました(下表)

今後医療・福祉分野の施設においても業務改善の必要が出てくるのではないかと思います。さらに腰痛対策の問題は病院施設よりも在宅の方が深刻で、介護者は日々の介護で腰痛が発生・増悪し、在宅生活を断念するケースもあり、在宅生活を推し進める国の方針からすれば介護者への腰痛対策も必要になるかと思います。

オーストラリアでは「ノーリフトポリシー」という概念が定着し、患者の自立度を考慮した介護機器使用による移乗介助を義務化されています。

腰痛対策概要
　人力で持ち上げられる重さ
　　男性　体重の40％まで
　　女性　体重の25％まで
　作業環境
　　適切な高さ、姿勢、気温など

【腰痛予防に関する福祉用具の紹介】

腰痛の原因は様々ですが、ひとつに対象者を介護者が「持ち上げる」ことで腰部に負担がかかり腰痛が生じることが多いため、介護の際「持ち上げない」「持ち上げる機会を減らす」ことが重要となります。介護で腰痛が発生しやすい「移乗」「トイレ介助(トイレ・おむつ)」「入浴」「体位変換」では、場面に応じた用具の選定や使用が必要になります。

移乗にはトランスファーボード、リフター(図1)は以前から利用されていました。最近はリフターの範疇でスタンディングマシーン(図２)も目にかかる機会も増えてきました。体位変換ではスライディングシートやポジショニンググローブ(図3.4)を活用されてきています。最近では介護ロボット（図5）などの活用も話題で今後の発展にも注目が集まります。

このような用具をうまく活用し、介護者だけでなく病院・施設スタッフへの介護負担軽減を図る必要があります。詳細は次回の記事でご紹介します。

図 1

図 2

図 3

図 4

図 5

【腰痛予防の取り組み】

腰痛対策を実施し、徹底・定着していくにはとても大変な労力が必要かと思います。右表のような組織全体での取り組み、問題解決に向けて能動的に取り組めるような環境を作り上げていくことが必要になります。

＃腰痛対策を講じる必要性を示す
＃施設内に対策チームを設置
＃アンケートを実施
＃現状の問題点、課題、対策、目標を分析
＃それに基づいた対応を実施

またセラピストが対象者に対し指導を行うには、自らが十分にその機器を使いこなせなければできません。使用方法については次回に掲載いたしますが、繰り返し練習操作のコツを十分に伝え、介護者に機器を利用するメリットを十分に実感してもらうよう支援していく事が重要であると考えます。機器や用具を利用した対象者への支援はOTの専門性が発揮できるのではないでしょうか。

今回の腰痛予防に関する研修会を今後開催予定としています。興味がある方は是非ご参加ください。
福祉用具に関して困った事や相談したい事があれば、当グループの事業「福祉用具相談支援システム（事前登録要）http://www.jaot.info/」をぜひご利用ください。相談アドバイザーと共にご相談に対応出来るよう支援します。
初回登録ID：yokaot　パスワード：otot

高齢の方からのメッセージ

おじいちゃん、おばあちゃんの言葉

**皆さんは作業療法士という仕事をやってみて、どんな気持ちでおられますか。
人と関わる仕事には、嬉しいことや悲しいこと、色々なことがあると思います。
作業療法士として、出来ることはなんだろうか、何が出来ているのか、
見失ってしまうこともあるかもしれません。
そんなときに、患者様や利用者様に言われた言葉で前向きな気持ちになれたことがありませんか。
すごく些細な言葉でも、自分の力になるような一言がありませんでしたか。
今日はそんな何気ない言葉を少しだけピックアップしてみました。
読んでみて、皆さんも思い出しながら、あったかい気持ちになってもられたら嬉しいです。**

人生いろいろあるわや。

自分が怒られたり、落ち込んだりした時に、認知症のおじいちゃんと話をした。他の人には言えなかったこと。でも、おじいちゃんには、自然と話してしまっていた。その数分後には忘れてしまうことを知っていたから、どこか安心している自分がいたのかもしれない。でも話ができただけで気持ちが落ち着いた。おじいちゃんには何も残らないかもしれないけど、この一瞬の、この一言で自分は頑張れた。なんでも乗り越えられる気がした。

あんたがおらんくなったら、誰が一緒にお茶を飲んでくれるの。

お茶をたてることが大好きだったおばあちゃん。毎日のように朝からお茶をたててくれました。職場を退職するときに、こんな一言を言われました。リハビリの前に、ただ一緒にお茶を飲んでいたことが、この方の生活の一部に、当たり前のことになっていたことが嬉しくて、少しでも必要としてくれていたんだと思えて、感動した言葉です。この仕事を続けて良かったと思う瞬間でした。

あんたといるのが、一番嬉しいよ。

今日、あんたの顔を見て、ホッとしたわ。

あんたに会えてほんとに良かった。

あんた見てると頑張れるよ。

日常の景色の中に

松江生協病院
リハビリ科　岩田

はじめまして。とあるカメラ男子です。この度は日常のなかにあるバリアフリーやその類の物を紹介してゆく、そんな連載を持たせて頂けることになりました。自分の行動圏域の中にあるものを紹介させていただきます。

さて今回なのですが、こちら。何の変哲もないスロープ及び階段の集合体です。スロープを使うか階段を使うかどちらかを選べることの素晴らしさがあると思います。たとえばリハビリをする際にはスロープを使用して坂道昇降の練習にも使用でき、となりの階段を使用すれば階段昇降の練習にもなる。もちろん普段の使用でも車椅子やシルバーカーを押しても移動でき、階段を使用することも可能。少々メタ的な視点になってしまいましたが、どちらを使うか選べるということは同時に様々な視点から考えることが増えるのではないかと思いました。また、階段の横にはスペースがあります。そこには様々なものを置くことができ、宣伝スペースにも使用できる。安らぎのひと時が演出できるのではないかと思います。こんな形でこれからも自分の琴線に触れた風景などを報告させて頂きたいと思います。息抜きに目を通してもらえたらうれしく思います。

ママさん奮闘記

第３回

昨年７月に元気な女の子を出産しました。第一子となる我が子はもうすぐ一歳になります。歯が生えたり、ハイハイするのが人よりゆっくりさんでしたが、下顎前歯２本が見え始めたり、ハイハイも一生懸命前進する様子が愛おしくて、たまりません！

そんな娘を車に乗せて、松江の自宅から奥出雲の職場まで通常１時間の通勤を２時間弱かけて通っています。途中で３回くらいは抱っこ、おっぱい、お散歩などで休憩を入れます。稀に、ご機嫌でお話しがたくさんできる日はストレートに到着することも。会話内容は「っだー、っだー」「ばばばばば」「まんまんま、まんま」

朝、保育園に近づくだけで泣いていた日々も１か月半経つと泣かなくなりました。夕方、仕事を終えて迎えに行くと、廊下の向こうで先生に抱っこされて私の方へやってきますが、私を見つけると両手を広げて「抱っこ一」と言わんばかりに、満面の笑顔です。たまりません‼ 「ぎゅっ」と抱っこしてあげます。

帰宅後は家事に追われ、離乳食もパパッと作り、食べさせるのは娘のペースでゆっくりと。自分のご飯はババっと一気に食べ終わり、お風呂は旦那さんが入れてくれるので、その間に保育園の「ひよこノート」を書いて、翌朝の着替えやオムツを準備。風呂上りの娘を受け取って、寝付かせて。仕事をしながらの子育て、なんと一日が早いこと‼‼

保険部からのお知らせ

平成26年度
診療報酬改定について

島根県作業療法士会
保険部長　秋吉　正広

今回の診療報酬改定は、社会保障・税一体改革の描く将来像や地域包括ケア体制の構築にむけ、「医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等」を重点課題として様々な体制整備や見直しが行われました。

このなかでリハビリテーションが担うべき役割として、急性期では早期からのリハビリテーションによりADL低下を防ぐことや早期の外来移行など、維持期では介護保険リハへの移行を促すことなどがあげられ、地域包括ケア病棟への専従配置をはじめ様々な加算等が新設・見直しがされました。

また精神科領域においても精神保健福祉法の改正に伴った改正や、地域移行・地域定着を進めるための対策、認知症への対策などについての改正が行われました。

これら改正の中で作業療法士はさまざまな場面での活躍が期待されています。点数や要件のみの理解にとどまらず、求められる役割を十分に理解し、多職種と連携をしながら各分野でご活躍いただきたいと思います。

島根県作業療法士会保険部では、少しでも皆様のバックアップができるよう、診療報酬改定やその他制度等に関する情報発信を行ったり、相談なども受け付けております。また今改定に関する調査なども計画しておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。問い合わせ等がございましたらshimane_ot_hoken@yahoo.co.jpまでお寄せください。

財務部より

☆☆☆会費納入について☆☆☆

県士会会費納入はお済みですか？今一度ご確認の上、納入が完了していない方は速やかにお振込み下さい。

未納３年を超えると退会となることがあります。ご確認の上、速やかにお振込下さいますようお願いいたします。

編集後記

今年は冷夏だといわれていましたが…、やっぱり夏は夏です。ここ数年、異常に伸びる雑草に温暖化を感じています。

総会も終わり、今年度もスタートしました。広報部では今年度より「おおはいごん」を県士会ホームページにも掲載することになりました。またよろしくお願いします。

平成25年９月１日　現在　施設数109　会員数３９５名

一般社団法人 島根県作業療法士会ニュース　年３回発行

□編集担当　石倉健一・白鹿真之介・植田泰斗・岩田竜太・江角奈緒子・遠藤早紀・飛田翔子
妹尾麻美・大中信祐・岡　哲也・足立貴哉

□投稿（400 字程度）、提案、情報提供を歓迎します。

発行所　〒 699-1511　島根県仁多郡奥出雲町三成 1625-1
一般社団法人 島根県作業療法士会広報部 島根リハビリテーション学院（TEL 0854－54－0001　FAX 0854－54－0002）
発行者：泉　靖司／編集者　石倉健一・白鹿真之介
印　刷：障がい者支援施設　授産センターよつば（〒 690-0131　松江市打出町 43）